

付録C

プロジェクト特性・人材特性関連表

スケールファクタとコストドライバそれぞれに対し、「ウェイト」を設定することによりプロジェクトの特性が規定できる。

ファクタとドライバ	連番	要素	要素 (日本語)	説明	ウェイト	コンピテンシー																					
						情報指向性	分析的思考	概念的思考	人間関係構築力	対人感受性	組織感覚力	対人影響力	強制的指導力	先見性	達成指向性	顧客指向性	徹底性	チームワーク力	リーダーシップ	人材育成力	組織への献身	柔軟性	自制力	自信	自発性	専門性	
スケールファクタ	1	(PREC)	先例性	組織として経験があるとは、記録(仕様書など)が残っている、経験者が残っている、ノウハウが蓄積されている	2																						
	2	(FLEX)	開発の柔軟性	要件の制約のレベル	3																						
	3	(RESL)	アーキテクチャノリスクの早期解決の必要性	デザインレビュー段階でのリスクの早期除去	1																						
	4	(TEAM)	プロジェクト関係者のまとまりの良さ	プロジェクト関係者の数に依存して決まる。数が少なければ、まとまりの良さが低くても大きな問題はない。	3																						
	5	(PMAT)	プロセス成熟度	プロジェクトで使用するプロセス成熟度のレベル。顧客の要求 / 社内の要求として、プロジェクトに対する成熟度要求が決まる。(説明省略、概ねことばの通り)	4																						
コストドライバ	6	(RELY)	ソフトウェア信頼性要求		5																						
	7	(DATA)	データベース規模	D/P = Database Size (Bytes) / Program Size (SLOC)	1																						
	8	(CPLX)	製品の複雑性	(テクニカルな特性は、今回の研究範囲から外す)																							
	9	(RUSE)	再利用の要求	他のプロジェクトでの再利用に対する要求	1																						
	10	(DOCU)	文書化	(説明省略、概ねことばの通り)	1																						
	プラットフォーム	11	(TIME)	(実行時間の制約)	(テクニカルな特性は、今回の研究範囲から外す)																						
		12	(STOR)	(主記憶容量の制約)	(テクニカルな特性は、今回の研究範囲から外す)																						
		13	(PVOL)	プラットフォームの安定性	プラットフォームの変更頻度のレベル	4																					
	要員ファクタ	14	(ACAP)	分析者の能力	高く、詳細なレベルの設計ができる能力。	2																					
		15	(PCAP)	プログラマの能力	チーム作業としての能力(能率、緻密さ、共同作業やコミュニケーション)を重視。経験の要素は除く。	4																					
		16	(AEXP)	アプリケーション経験年数	プロジェクトチームに求められるアプリケーション経験年数。	5																					
		17	(PEXP)	プラットフォーム経験年数		3																					
18		(LTEX)	言語およびツールの経験年数	言語・ツールの使用経験のレベル	1																						
19		(PCON)	要員の継続性	(説明省略、概ねことばの通り)	1																						
プロジェクトファクタ	20	(TOOL)	ソフトウェアツールの使用	ツールは単純な編集ツールのようなものから統合マネジメントツールのような幅広い範囲を指す。	3																						
	21	(SITE)	複数拠点開発	拠点の分散度合い(同一場所から海外拠点)と、コミュニケーション支援(郵便・電話からマルチメディア対話)の程度。	2																						
	22	(SCED)	開発期間の要求		1																						
プロジェクト特性				が3点、 は1点で計算した、プロジェクト特性ポイント。		35	59	62	24	11	17	9	8	34	30	29	34	32	19	3	8	19	16	40	32	93	